

街道を歩く

東海道：01 境川(県境)―二川



二川宿 (吉田宿へ1里20町)
 慶長6年(1601)幕府の街道整備で宿駅設置。開設当時は二川村と大岩村の2ヶ村で一宿分業務をおこなっていたが正保元年(1644)現在地に移転して二川宿、加宿大岩町となり東海道33番目の宿場となる。街並は12町16間、本陣はじめ旅籠商家、枡形など残り宿場の景観残す。本陣1、脇本陣1、問屋場2、旅籠38(天保14年)

[弥次・喜多]家ごとに強めしあきなう見ゆれば
 "名物はこはねどしるきこはめしや
 これじゅうばこの二川の宿"
 乗りかけとけんかとなり脇差(竹?)を奪つて
 "わきざしの抜身は竹と見ゆれども
 喧嘩にふしはなくてめでたし"

二川本陣跡

はじめは後藤家、小宿場のため赤字、享保20年(1735)、寛政5年(1793)火災に遭い当主死亡、紅林家が継ぐ、田畑を売り再興するが文化3年(1806)火災で本陣返上、宿方は馬場家に依頼、馬場家は本陣経営だけでは赤字なので質屋、寺子屋、紙細工など多角経営した。享保年間の表門、宝暦年間建築の主屋、文化年間建築の玄関棟が残る。



脇本陣跡

脇本陣は松坂家が務める。この地に後藤家、紅林家の本陣があった。本陣が馬場家に移ったときに街道の南側にあった脇本陣がここに移った。間口7間、奥行19間。



大岩神明神社(祭神天照皇大神ほか)
 文武天皇2年に岩屋山麓に奉斎。天保6年二川宿と大岩村合併により現在地へ古来より武將の崇敬あつく、信長は陣太鼓を寄進、家康は朱印3石5斗を奉納



二川八幡神社(祭神応神天皇)
 社伝によれば永仁3年(1195)鎌倉鶴ヶ岡八幡宮から勧請したのがはじまり。湯立神事には幕府より薪が下付され江戸時代には幕府より黒印地2石受け格式は高かった。



妙泉寺(日蓮宗)
 前身は貞和年間(1345-50)日台上人が建てた小庵その後日意上人が再興、身延山から離れ遠州吉美村妙立寺末となり万治3年(1660)今田中より現在地に江戸時代には黒印2石受けていた。境内には寛政10年(1798)に建立された芭蕉の紫陽花塚がある。



岩屋観音

天平2年(730)行基が諸国巡行の際に千手観音を刻んで岩穴に安置して開いたという。岡山藩主池田綱政は黄金の灯籠絵馬など寄進された。山頂の聖観音像は明和2年(1765)吉田大橋の架けかえを担当した江戸大工茂平と善左衛門が寄進。昭和26年再建。



二川入口の一里塚までは松並木はあったが家は一軒もなかった。
 "旅人とだえ、さびしければ、
 ふうふ旅など、または女の道づれにても
 くだきおとしてとほすには、
 くつきやうの場所也" [旅枕]

[弥次・喜多]
 こゝは遠江三河さかいにて橋あり
 "遠州へつぎ合わせたる橋なれば
 にかわの国というべかりける"